

## 愛護センターだより

発行:敦賀市少年愛護センター

住所:敦賀市東洋町1番1号

電話:0770-23-0189 Fax:0770-23-0523

『青少年健全育成都市宣言』都市:敦賀市

### 子どもの鬱症状

2021年12月に、国立成育医療研究センターが、小学校高学年児童・中学生を対象に「新型コロナウイルスの流行が子どもの生活や健康に与える影響」について調査。その結果、小学校では郵送回答の9%、ネット回答の13%の児童、中学校では郵送回答の13%、ネット回答の22%の生徒に中等度の鬱症状が見られるという発表がありました。



さらに、鬱の症状があった場合、誰かに相談できるかを尋ねたところ、小学5年生と6年生では25%、中学生では35%が「誰にも相談しなくてももう少し様子を見る」と報告しています。しかも、鬱の症状が重くなるほど相談しないと答えた子どもの割合が高くなる傾向があったということです。

鬱病は、脳内で分泌される「セロトニン」等の「神経伝達物質」が、うまく機能しないことによる病気で、「一日中気分が落ち込む」「やる気が起きない」「何をしても楽しめない」といった精神症状だけでなく、「眠れない」「食欲がない」「疲れやすい」などの身体症状も現れます。

特に思春期は、体も心も子どもから大人へと変わっていく大変不安定でストレスを感じやすい時期でもあります。将来への漠然とした不安や友だちとの人間関係、受験のこと、部活動のトラブル、親との関係、外見の悩みなど、大人以上にストレスを感じています。怒りっぽくなる、集中力が低下して本や会話などの内容が頭に入っていない、悪いことばかり考えるとといった症状が見られることがあり、勉強が続けられなくなったり、通学することすらできなくなったりするなど、日常生活にさまざまな悪影響を及ぼします。



セロトニンを活性化させるためには、「適度な運動」「太陽光を浴びること」「人とのふれあい」と言われています。コロナ禍により、人とのふれあいが制限されている上に、過度なスマートフォン等の使用による夜更しや運動不足は、鬱病へのリスクを大きくしてしまいます。日々成長を続ける子ども達にとって大切な時期だからこそ、家族でスマートフォン使用ルールについて今一度話し合いが必要です。また、苦しい状況の子どもほど「迷惑をかけたくない」と思う気持ちが強いようです。子どもの声をしっかり聞くために、子どもが心を開きやすい状態を作るよう心がけましょう。

### 授業はICT

これから生きる子ども達が、予測不能な社会に備えて、これまでの「知識習得」ではなく、入手した情報をもとに考えることが必要となると言われています。その情報を入手する・使う・判断する等の力を育むためには、まずは授業の中でICT端末を用い、慣れて、操作できるようになり、その上で活用する…という経験をしていかなければなりません。今、学校が求められているのは、そんな授業です。



もちろん、基礎基本となる「知識習得」も必要です。発達段階によって、その使用頻度は違いますが、学年が上がるほど使用頻度は高くなるのが考えられます。どうなるかわからない今後の社会を生き抜くための準備となると、子ども達がつけなければならない力・知識量は膨大。そのためには、授業時数を増やすか、効率をよくするか。となると、効率を上げるしかなく、やっぱりコンピュータを用いた学習が必要になってきます。

令和3年度には全児童生徒に準備されたiPadやChromebook。授業風景も、黒板にチョーク、ノート、鉛筆から変わりつつあります。モニターを見て、考え、意見を入力。全員の意見がモニターに映り、それを確認しながら授業が進む。動画を見ながら作業を進めたり、作業の様子を録画して提出したり。課題が出れば、すぐにネット検索を開始し、調べ学習を行っています。図形を立体的に標示できたり、写真や動画により直感的に理解しやすい



資料を提示できます。ドリル学習もタブレット端末にあるアプリを使って行われ、一人一人の苦手に対応した問題が出されるようになります。また、いつでも解説動画で学習内容を復習できるようになっており、個別の学び直しも可能となります。アンケート等も、その分布がすぐにグラフとして視覚化されます。さらに、レポート

等の表現方法が多彩になりますから、創造力、表現力、思考力などを養うことが可能になります。

授業が変わってきますから、家庭学習も変化していきます。教科書やノートを開くのではなく、タブレット端末で…。動画サイトをみて遊んでいるのか、勉強をしているのかが目ではわからなくなることでしょう。

この4月、福井県教育委員会が発表した家庭教育に関する調査結果（県内小学5年生と中学2年生対象）によると、「家で平日どのぐらいインターネット（SNS、ゲーム、動画など）を使うか」という質問に対し、「平日2時間以上」と答えたのは、小5は36.1%、中2は48.4%。「4時間以上」はともに1割を超えたとのこと。

家庭でのICT端末使用に加え、授業でも家庭学習でも使うようになると、これまで以上の長時間使用となります。ICT端末の長時間使用については、心配する意見もあります。家庭での使用については、これまで以上の見守りが必要になりそうです。

ICT端末の長時間使用についての懸念事項については次号で取り上げます。

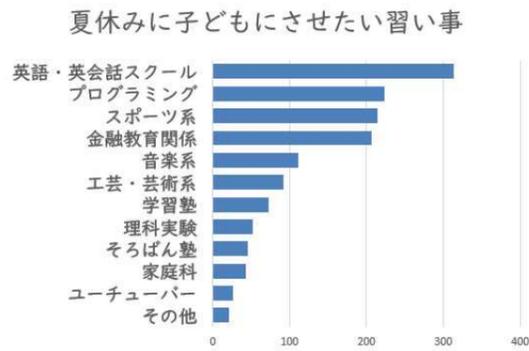
## 夏休みには…

7月13日、イー・ラーニング研究所が、子どもがいる全国の20～50歳の親516人を対象に実施した「2022年子どもの夏休みの習い事並びに夏休みの学習に関する調査」の結果を発表しました。

「夏休みに子どもにさせたい習い事」の第1位は「英語・英会話スクール」。昨年同様、最も多い結果となりました。いろいろな分野でデジタル化が進み、グローバル化が身近になってきたこともあり、英語力が必要だと保護者が感じているということでしょう。

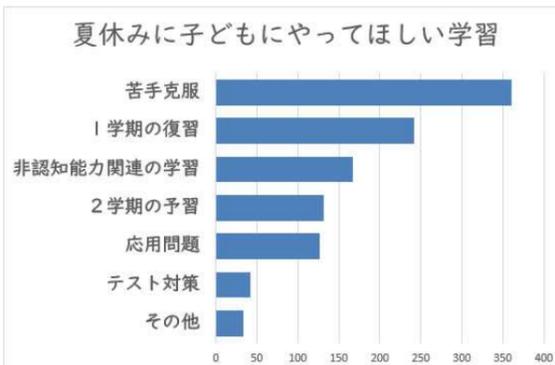
第2位はプログラミング。授業でもICT端末が頻繁に使われるようになり、またプログラミング教育も実施されるようになってきたこともあって子どもが興味関心を持つ様子から、その力を伸ばす機会を与えたい！という想いもあるのでしょうか。

そして、第4位は「金融教育関係」。高校の家庭科では金融教育が導入されたことやコロナ不況により、資産運用等の知識を早くからつけさせたい…という思いからでしょうか。



一方、「夏休みに子どもにやってほしい学習内容」は、1位が「苦手克服」、2位が「1学期の復習」でした。授業が進まない長い休みですので、この機会を利用してしっかり勉強してほしい！というところでしょう。

ところで、第3位の「非認知能力」というのは、テストで数値化されにくい能力のこと。例として、下の表にまとめたような力。「非認知能力」という言葉にはあまり馴染みがなくても、一つずつ見てみると、どこかで一度は目にしたものばかり。「ぜひ我が子に、この力を！」と願うようなものも多いのではないのでしょうか。こうした力をつけるためには、多種多様な学習の機会を子ども達に準備しなければなりません。願うだけでは、子ども達は動きません。大切なのは保護者の働きかけ。果たしてその結果は…？



非認知能力の名前	具体的な能力
自己認識	自分を信じる力、自己肯定感
意欲	学習志向性、やる気、集中力
忍耐力	ねばり強く頑張る力
メタ認知	客観的思考力、判断力、行動力
社会的能力	リーダーシップ、協調性、思いやり
対応力	応用力、楽観性、失敗から学ぶ力
クリエイティビティ	創造力、工夫をする力

コロナ禍で体験が少なくなった子ども達。この夏休みは、保護者の方々が満足できるような学びを子ども達はしていたでしょうか？

授業が再開しました。

夏休みの反省を生かして、子ども達の様子をしっかりと見ながら、寄り添っていきましょう。



## 青少年への愛のひと声活動……補導日誌から

○7月6日(水) 17:00～19:00 曇 ⇒一部抜粋

アル・プラザ敦賀6階の駐車場の隅に女子高生3人組がいた。気になったので声をかけた。本人達は周囲に誰もいない場所でTikTokの動画を撮りたくて、この場所に来たと言った。確かにあまり車はなく、誰にも邪魔されずに撮影できると思ったが、薄暗いし、車が少ないと結構スピードを出す車もいるから気をつけるようにと話をする、わかりましたと言って店内に入っていった。流行のものに思考がいきすぎて、万が一が考えられないのは危険だと思った。

○7月19日(火) 19:00～21:00 雨 ⇒一部抜粋

補導時間外のこと。夜10時過ぎにMEGAドン・キホーテUNY敦賀店で中学生や高校生の親子を見るのですが、「18歳以下の…」というアナウンスが流れているのに、来ていることを見かけます。夏休みも近いので、学校でどのように注意喚起をしているのか？と思っています。



→この他にも「ゲームセンターで子どもを遊ばせているというより、保護者がゲームをしたくて連れてきて、子どもをほったらかしにしてゲームに夢中になるのは…」という記載もしばしば見られます。そこで、保護者と共に行動している場合について学校に確認しました。「学校が行う下校後の児童・生徒の指導として、“自転車に乗るときは…” “～までに帰宅しましょう” 等がありますが、これは子どもだけで行動するときに想定しています。保護者同伴であれば、保護者の監督の下での行動となりますので、保護者判断です。いろいろな事情があり保護者が子どもを同行させて買い物をしていることに、学校が指導をすることはありません。」とのことでした。

○7月22日(金) 19:00～21:00 雨 ⇒一部抜粋

松原海水浴場で花火をしていた高校生(男子1名、女子6名のグループ)に声かけ。火事の危険性や夜間行動のため、後片付けを促し、早期帰宅の呼びかけをした。素直に私達の呼びかけに応じた。



○8月2日(火) 17:00～19:00 ⇒一部抜粋

アル・プラザ敦賀6階メダルコーナーで女の子が一人で遊んでいたのを声をかける。母親と一緒に来ていて、母親が買い物をしている間に遊ぶということをよくやっているとのことだった。お家の人と一緒にいるという約束を確認したら、わかりましたと母親のところへ戻っていった。



ゲームコーナーの方に話を聞くと、前日の休みの日に男子中学生2人の態度が悪く、声をかけたら、その時の対応がさらに店員さんを不愉快にさせるものだったよう。学校に連絡不要とのことだったが、本人達には強く指導したそうで、子どもの言動に苦慮しているようだった。

